

# 活動報告

## 生活支援活動を

### 一歩ずつ進めよう！

#### アンケートの結果

五月に実施したアンケートは、43 項目にも亘りましたが、殆んど全項目に対し会員のどなたかが対応して頂けるといふ結果でした。今後高槻市市民公益活動サポートセンター（以下センターという）からの支援要請を受ける事業項目に対して、多数のものに対応していける基盤があるといえよう。

#### 活動の調整が肝心

支援活動は、センターからの要請を受けて、まず依頼者の要望を聞き、現場・現状を確認した上で、対応可能と思われる会員を中心に進め方（方法と必要工数など）と日程などについて相談・調整する。実施できる場合は、調整した内容をセンターと依頼者へ伝え、了解

が得られれば実施することを決定する。決定した実施内容は、特に実施日の確認を中心に依頼者・センター及び活動提供者の間で確認を徹底します。

#### センターの生活支援活動

センターの生活支援活動は、高槻市の福祉事業の一環で取り組まれているものであるが、活動についての考え方が二つあるようだ。その一つは、

- ①資格を問わないもの、
- ②危険でないもの、
- ③商売としないもの、
- ④継続しないもの、と

いう考えである。

その第二点は、基本的には健康な高齢者市民に対して、生きがい・やりがい、張り合いなどを提供する場として生活支援活動を進める、としていることである。事業を実施した結果として、支援を要請した市民（依頼者）に役立つ事業となる、という考えである。

行政の立場からは、生活支援活動は高齢者の活動の場づくりが基本のようである。

#### 身の丈にあった活動を

VG 概輪が生活支援活動を今後進めていくに

当って大切なことはもう一つある。それは

「できる事を、出来る時に、出来る人が、出来る所で」という身の丈にあった活動に徹するという姿勢であろう。ケガの防止という安全面は勿論であるが、「末永く、コンスタントに、みんなが協力し合って、確かな活動」を進めることが基本である。

#### 受け払いはキツチリと

VG 概輪はボランティア団体であるから、生活支援活動で利益を生むことは目的ではない。しかし実施した事業（活動）に対して、交通費と定められた基準にもとづく活動費を受け取ることは、何ら臆することなく毅然として受け取ることとする。一件の活動で受領した金額の 1/20 を VG 概輪に入金し、受領した金額の 1/20 を生活支援活動責任者の支援活動費とし、残額は実施者（活動提供者）が受け取るものとする。

#### 活動報告と評価をこまめに

活動支援を行った事業は 1 件毎にセンターに所定の様式の活動報告センターからの要請を受けて生活支援活動への対応を歩一歩と進めていくこととなります。活動推進責任者 M・S

## 甘辛チャンネル

### 水

6 月は雨の季節。「水無月」雨の季節なのに何故この様な季節なのだろうと思つたら古人は陰暦で月日を数えていたのです。

#### 「水は天から貰い水」

九州地方に歌い継がれている歌詞にもあり、全くその通り。でも現代は天からの水が川となり濾過され地下の管を通り地上に表れます。

私達は当たり前の様に蛇口をひねればサーッと水の出る生活を営んでいます。

然し 天災が起きると忽ち蛇口はからまわり、一滴の水も出なくなります。

動植物は水を絶たれると過乏により生命が絶たれたり、植物は枯れ果てます。

以前、ある大学の教授が学生達を連れてアフリカの砂漠地帯で 1 日僅かな水で生活する体験学習をさせたそうです。

砂漠地方で生活を営んでいる人達は遠くの井戸や溜め池に水を求めて幼児も含め 1 日何度も水汲みに往復しているそうです。地震やサイクロンで激流を目の前にしても飲料水には適さないのです。たとえ水が目前にあつても・・・。

食べ物は口に出来なくとも、飲料水を口に出来なくなると生きては行けないのです。雪山等で遭難した人達は雪を口に含んで生き延びたとか。

震災で不幸にもガレキに埋もれた方達も救助の人々がほんの一部のスキマから水を差し入れて助かった方達の話も耳にします。

#### 水は「生命の源」

昔日常的に使用していた井戸を見なおし非常時に活用出来るのでは？

## 四季彩

### カルミア

#### (アメリカ石楠花)

躑躅（つつじ）科、18 世紀のスウェーデンの植物学者「kalm (カルム)」さんの名前にちなむ。

開花時期は 5/15 ~ 6/5 頃、北アメリカ原産。

別名：「スプーンの木」はインディアンはこの木からスプーンを作ることからつけた。 T.N

